

「さんべで冬体験！」

1 趣 旨

- 冬の三瓶の自然に触れながら行う様々な体験を通して、三瓶地域の自然や体験活動に興味・関心を持つ。
- 親子で一緒に活動することにより、親子活動の楽しさを知る。
- 体験活動に興味・関心を持つことで、以降も体験活動をしたいという意欲につなげる。

2 事業の概要

- 主 催**
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立三瓶青少年交流の家
- 期 間**
令和5年2月11日（土）～2月12日（日）＜1泊2日＞
- 会 場**
国立三瓶青少年交流の家、三瓶山東の原（石見ワイナリー・観光リフト周辺）
- 参加対象**
主として幼児・小学生とその家族
- 参加者**
29家族（94人）
※募集の目安を35組（80人程度）と設定していたため、参加者を抽選で決定した。
- 講 師**
ボルダリング・歩くスキー教室：当所研修指導員
冬の森たんけん：井上 雅仁 氏（島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課長）
- 日 程**

	10:30	11:00	12:00	13:00	～	17:10	17:30	～ 19:00	19:00	～	20:00	20:00～22:00	22:30
1 日 目	入所・受付	オリエンテーションの会	昼食・休憩	積雪あり	「さんべ志学の雪あかり」イベントに参加 雪像・雪あかりづくり体験 場所：三瓶山東の原（バスで移動）		夕食・入浴		＜選択活動A＞ ①「さんべ志学の雪あかり」の雪あかり見学 （自家用車での移動） ②木エキーホルダーづくり ③自主活動（カブラなど）		入浴・休憩	就寝	
				悪天候・積雪なし 晴れ	＜ローテーション活動＞ ①カローリング ②ボルダリング ③冬の森宝さがし								
2 日 目	起床	クリーンアップタイム	朝退所点検	積雪あり	＜選択活動B＞		おわりの会	解散	退所後は？ ・三瓶自然館サヒメル見学（割引券あり） ・埋没林公園見学（割引券あり） ・三瓶こもれびの広場木工館で創作活動 ・さんべ温泉 ・世界遺産石見銀山見学 ・早めに帰宅 などご都合に合わせてプランニング!! ※上記の施設等は、急に休館になるときもあります。 詳しくは、直接各施設等にお問い合わせいただくと 確実です。				
				悪天候・積雪なし 晴れ	①歩くスキー教室 初級・中級・上級に分かれ、練習・コースを歩きます。	②冬の森たんけん かんじき・スノーシューで、冬の森を探索します。また、講師のお話を聞き、楽しく学びます。							
				「歩くスキー教室」を申し込んだ参加者 悪天候・積雪なし晴れの場合 →みんなでKAPLA 「魔法の板」と呼ばれるブロックで遊びます。		「冬の森たんけん」を申し込んだ参加者 悪天候の場合 →サヒメルの見学や学芸員のお話を通して冬の森について楽しく学びます。 ※別途入館料必要		※悪天候の場合は、「おわりの会」を先に行うなど日程を変更する場合があります。					

※両日とも、「積雪あり」プログラムで実施した。

3 事業の内容

(1) プログラムデザインと企画のポイント

本事業は、多くの人に雪に触れる活動を提供したいという思いから、冬の三瓶で人気のある活動の「歩くスキー」をメインに据え、毎年度継続して行ってきた。昨年度は、新型コロナウイルスの

「まん延防止等重点措置」の発令に伴い、残念ながら中止となったため、今年度が10回目の開催となった。例年は初日に全員で歩くスキーの活動をしてきたが、今年度は「地域ぐるみで『体験の風をおこそう』運動推進事業」である「さんべ志学の雪あかり」とタイアップし、雪像や雪灯ろう作りといった活動ができるようにした。また、2日目の選択活動では、当所に隣接する島根県立三瓶自然館サヒメル学芸員の案内で冬の森を歩く「冬の森たんけん」を設定した。これらのことにより、参加者が歩くスキー以外にも多様な活動を通して冬の三瓶の魅力を体感できるように配慮した。天候に左右されることから、積雪の有無や屋外の活動ができないときも、冬の三瓶の魅力を体感できるような代替プログラムを用意することにも留意して企画した。

(2) 運営のポイント

本事業は35家族80人程度を募集の目安にしていた。このため、コロナ禍での密集状態の回避と、活動中に待ち時間が生じることに伴う活動時間の減少の防止という観点も踏まえて、2日目の活動を「歩くスキー教室」と「冬の森たんけん」の選択制にすることとした。

安全管理の面では、「歩くスキー教室」は1班の人数が20人程度になるように調整し、4班を編成した。また、各班には当所研修指導員及び、職員又は法人ボランティアスタッフの2人がつくようにした。「冬の森たんけん」は1班とし、講師、当所職員、法人ボランティアの3人がつくようにした。

「さんべ志学の雪あかり」実行員会担当者や、「冬の森たんけん」の講師との連携の面では、事前に何度か連絡をとり合うとともに、事業開始の前日の午前には、積雪ありプログラムで実施することを最終確認した。また、これを踏まえて、前日午後には参加者に対して一斉にメールを配信し、予定どおりのプログラムが実施できることを伝えることで、参加者が見通しをもち、安心して事業に参加できるようにした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

(%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体について	80	17	3	0
プログラムについて	76	21	3	0
運営面について	86	14	0	0
スタッフの対応について	90	10	0	0

(2) 参加者の声

- 初めてのスキー体験、楽しかったです。またやりたいです。
- 通常の旅行とは違い、子供も親も勉強になりました。
- 雪とこんなに長く関わることがなかったので、家族でゆっくり関わりながら自然と遊び、家族の時間をもつことができ良かったです。
- 秋に三瓶山に登り、キャンプをしたので、娘は「また三瓶に行きたい」と楽しみにしていました。たくさん雪で遊び、夜は幻想的な風景を体験でき、大満足でした。
- 活動が終わって、子供が「また来たい」と言ってくれました。
- 新型コロナ対策がしっかりしていて、安心して活動できました。
- △雪が少なかったため、雪あかりの時間をもてあましてしまった。また、最後は少し寒かった。
- △時間配分が悪い。全然（歩くスキーで）滑る時間がなく、おもしろくなかった。

5 成果と課題

《成果》

①本事業に対するニーズの大きさを再確認できたこと

募集定員を親子 35 組（80 人程度）と想定していたが、73 組（233 人）の応募があった。これは、昨年度が新型コロナウイルス感染症「まん延防止等重点措置」に伴って実施できなかったために、2 年ぶりの開催となった本事業に対する期待の大きさの現れであると考えられる。また、応募した家族のうち 49 組が、当所の利用経験がない家族であった。これらのことから、雪上での体験活動に魅力を感じ、体験してみたいと感じる人の多さ、雪上での体験活動のニーズの大きさを再確認することができた。

②冬の三瓶の魅力を体感できる多様な活動を提供できたこと

今年度は「地域ぐるみで『体験の風をおこそう』運動推進事業である「さんべ志学の雪あかり」とタイアップし、雪像や雪灯ろう作りといった活動ができるようにした。また、当所に隣接する島根県立三瓶自然館学芸員の案内で冬の森を歩く「冬の森たんけん」を設定した。このように、参加者が興味・関心や体力に応じて活動を選択することができるようにプログラムをデザインしたことにより、多くの参加者の高い満足度につながったと考える。

③体験活動の普及啓発と親子交流につながったこと

参加者の声にあるように、参加者が「楽しい」、「またやりたい」と感じられたことは、体験活動普及啓発の面で、ねらいとする成果を得ることができたといえる。また、親子活動の良さを実感できた参加者もあり、親子交流につながった点でも事業趣旨に沿った成果を得ることができたといえる。

《課題》

①活動の楽しさを十分に味わえる内容と妥当な活動時間の設定

「さんべ志学の雪あかり」とのタイアップが初の試みであった今年度は、例年初日午後に全員で行っていた「歩くスキー教室」を 2 日目の選択活動のみに限定した。このことが、活動時間が短くなり、「滑る時間がなく、おもしろくなかった」という参加者の声につながったと考える。また、初日午後の多くの時間を「さんべ志学の雪あかり」に当てたが、滞在時間が長くなり、寒い思いをする参加者もいた。次回以降は、事業受付開始を午後からにするなどして、活動の楽しさを十分に味わうことができ、かつ、長すぎない妥当な活動時間を設定したい。

これまでは、冬の三瓶で人気のある活動の「歩くスキー」を中心に据えてプログラムをデザインしてきたが、今回、「さんべ志学の雪あかり」をメインプログラムに設定した。雪あかりの参加については、特に夜の会場見学に参加した参加者からの肯定的な反応が多く得られており、「さんべ志学の雪あかり」とのタイアップの成果は大きかったと感じる。次回以降は、夜の雪あかり見学も含めたプログラムをデザインすることも検討したい。

②冬の三瓶の魅力を体感できる代替プログラムの整備

例年のメインに設定していた「歩くスキー」は魅力があり、主催者としても是非多くの参加者に体験してほしいと感じている。一方で、本事業は天候に左右される部分が大きく、これまでも無積雪時や、荒天時のプログラムの設定に苦労してきたが、現状では、当所には「歩くスキー」の代替として自信をもって提供できる冬の自然体験プログラムが整っていない。例えばフィールドビンゴなどのネイチャーゲームとピクチャーオリエンテーリングの要素を組み合わせるなどして、既存のプログラムを活用・応用し、冬の自然体験活動プログラムの充実を図りたい。これにより、本事業にとどまらず、冬季に「歩くスキー」を計画している利用団体への代替プログラムの提案にも生かすことができると考える。



「さんべ志学の雪あかり」
雪像づくりコンテストに参加する家族の様子



「さんべ志学の雪あかり」
参加家族が作った雪像の一例



「さんべ志学の雪あかり」
雪灯ろうに取り組む参加者の様子



「さんべ志学の雪あかり」
LED キャンドルの灯がともった様子



選択活動 B
「歩くスキー教室」の様子



選択活動 B
「冬の森たんけん」の様子

(担当：企画指導専門職 向原 将平)